

二〇一八年度 C選考

国語 その一

叱られる。

(中西進 「日本人の忘れもの2」)

□ 次の文を読んで、あととの間に答へなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
 (設問の都合上、本文に一部表記を改めたところがあります。)

日本人は井物(いのもの)が大好きである。天井、かつ井、うな井。近ごろは※趣向(しょこう)を凝らしていくら井などというものもあるらしい。さてその井には二つの等級があつて、松、竹、梅と名づけられる。ふつうはこの順序に値段が下がるのかと思つたら、ある店のうな井は松が一二〇〇円、竹が一八〇〇円、梅が二四〇〇円だった。梅が松のバイだというだけでもあるまい。

それはともかく、竹はいつも中ほど。そこで聞くところによると、

圧倒的によく出るのは竹だそうである。要するに①井屋の客は、まん中の井をよく注文するらしい。

なるほど、それが^a無難(むなん)だろう。

いつもいつも特上の寿司(すし)しか食べない男は、ちょっと※胡散(うさん)くさいと警戒されかねない。ことわざにも「A」というものがある。

何事にも目立つと人の※ぞねみを買い、ろくなことはない。

反対に、いつもいつも下等のものばかりを食べていると、人から※さげすまれる。これまた目立つて、あいつは貧乏(ひんぱう)だとレッテルは

られる。そこで少々我慢(がまん)をしても、竹を注文することになる。

何しろ、人並みにしておけば問題ないのである。少しでも他人と違つていると、とかく「あいつは変わり者だ」ということになり、仲間はずれにされてしまう。

だから等級ばかりか、注文する品物まで他人と違うものは、注文するのに勇気がいる。仲間がビフテキを食べたいという時に、オレは刺身(さしみ)だとい張る男がいると、だから多少食べたいものが違つても皆がビフテキが食べたいと言えばOKし、席につければグラム数まで同じ、焼き方もミディアムと言つておけば仲好(なかよ)いでいる。

B、外国のレストランでは二人目以下の日本人は、すべてウェイタレスに「※セーム」「セーム」と注文することになる。その結果、「②日本人はセームという料理を発明した」などとからかわれる結果となる。

要するにセームとは、竹のことなのである。
 竹の思想は料理だけではない。シカタなく寄付するときも、右左の人の額を聞いて、ほどよくバランスを保った金額にする。多ければ※傲慢(きまん)だといわれ、少なければケチだといわれる。

③寄付にまで、竹の思想が生きている。
 さてそななると、日本人にはまるで個性がないと言われる。※ケゲンな顔ならまだしも、バカにされることもある。

反対にいちいち、いちばんうるさい外国人はドイツ人ではないか。風呂に入る時まで温度は何度がいいかと聞く。確かに熱め、ぬるめと好みは日本人にあるし、ましてや血圧を心配している人はぜひ適温が必要だろうが、ふつうの時なら④ほどほどの熱さの湯でいいではないか。

しかしそんなことを言うと、日本人は個性がないと言われる。※ケゲンな顔ならまだしも、バカにされることもある。

そこで文明開化の波の中で、明治時代の※先覚者たちは、この日本人の文明度の低さを嘆いた。何とかしようと考えた。

その結果、近代日本の合いことばが「自我の確立」ということになつた。

学校でもいっせいに、個性教育を^dカンパンにかかるようになつた。「よい子」はのびのびと※ディベートでも独自の意見を述べ、堂々と勝利をおさめる子である。

ここでも、⑤竹組はコソコソと尻っぽを巻いて逃げるしかない。もう日本人は、ほんとうにどうしようもない劣等民族である。少しは俺たちのように欧米人の教養を身につけたらどうだ、と先覚者から

※趣向：おもむきやおもしろみを出すための工夫。

※胡散臭い：なんとなく疑わしい。信用できない。

※ぞねみ：他人をうらやましく思い、その分にくらしく思う感情。

※さげすむ：自分より劣つたものとして人を見下す。

※セーム：「same」のことで、同じものという意味。

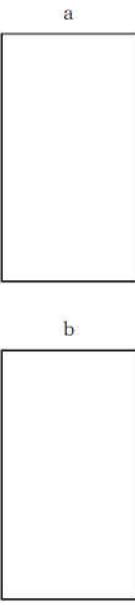
※傲慢：おごり高ぶつて人を見下すこと。

※ケゲン：不思議で納得いかない様子。

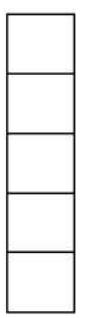
※先覚者：人々より先に道理を悟る人。

※ディベート：あることについて、異なる意見を持つもの同士が意見の正当性を議論しあい、勝敗を第三者が判定すること。

問1 □ a～dの漢字には読みがなをひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。



問2 ①「井屋の客は、まん中の井をよく注文する」とあります
 が、これはどう考えるからですか。それが現れている一文を五十字以内で本文中から探し、初めの五字を抜き出して答えなさい。



問3 □ Aに入ることわざとして適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|---|------------|
| ア | 出る杭は打たれる |
| イ | 後悔先にたたず |
| エ | やぶから棒 |
| ウ | 長いものにはまかれよ |
| エ | しかし |
| ア | たとえば |
| イ | または |
| エ | そこで |



二〇一八年度 C選考

国語 その一二

問5 ①②「日本人はゼーモンという料理を発明した」という言葉には、どんな気持ちが込められていますか。適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

光男は掲示板の縁石に、バツグを下ろした。それからゆつくり顔を上げたとき、その目は見たこともないほど、きまじめな色をたえていた。

ウイ
反感

問6 一③「寄付にまで、竹の思想が生きている」とあります、どのように寄付をすることを指していますか。本文中の言葉を用いて四十字以内で答えなさい。

健は、身がまえていた。
「おまえさ、学校のブルー入ったことないじやん。どうして？
あ、あの：答えたくなれば、答えなくともいいんだけどさ。」
健はうつむいてしま、何度もうなずいた。

問7 一(4)「ほどほどの熱さ」とありますが、ここではどんな温度の
二(5)度をいいます。強度ならぬりを次つアーティカル一(6)强度で、記号で答えて

ア イ
カ カ イ め る の 温 度
エ ウ 普 通 よ り 少 し 热 め の 温 度。
エ ウ そ の 人 の 好み の 温 度。
エ 热 く も ぬ る く も な い 温 度。

問8 一⑤「竹組」とありますが、これはどういう子のことを指して
いますか。「個性」という言葉を用いて二十字以内で答えなさい。

ANSWER KEY

〔設問の都合上、本文に一部表記を改めたところがあります。〕

小学校五年生の健は、理由はわからないが、水がこわくて、プールに入ることができなかつた。一つ違いの姉の裕美がなにかにつけて健につらくあたり、けんかが絶対になかつた。姉は何も知らずにいる健がゆるせなかつたのだった。ある日、いつもの上へうに言い争つていたときに、ふともらした言葉がきっかけになつて海での事故のこと思い出す。そして、両親も姉も、事故のことを覚えていない自分には何も知らせなかつたことを知つた。姉とも理解し合えるようになり、水がこわいという理由がわかつた健は、友人の光男が通つている水泳教室にやつて來た。

光男は B があくほど健の目を見つめた。
けど、もうなにもたずねなかつた。かわりに、ふうっと息をはく
と、話題を変えた。

「おれ、ブールでも⑤顔なんだ。まかせとけつて。ちやんと面倒みて
やるからさ。」

健はもうなにもいえなくて、思わず光男の胸をブールのドアのほう
へ、ぐいぐいおしていった。すると、光男は二倍の力で、健の胸をぐ
いぐいおしかえしてきた。健は意地になつて、そのまた倍の力でおし
かえした。

⑥しばらくの間、ふたりはことばもなく、むきになつておしくらま
んじゅうを続けていた。

